

教えるときのポイント！

① 「やさしい日本語」で話す！

子どもたちが理解しやすいように、「やさしい日本語」で話してください。

☆簡単な語彙・文法を使う

「これ以降は理解できますか？」 → 「この下はわかりますか？」

「ここは〇〇しか使えません。」 → 「ここは〇〇を使います。」

☆短い文章で話す

「日本の首都は東京で、中国の首都是北京です。」 → 「日本の首都は東京です。中国の首都是北京です。」

☆語尾を濁さずに言い切る

「これは過去形のほうが……。」 → 「これは過去形のほうがいいです。」

☆言葉だけでなく、図や写真を活用する

☆はっきり・ゆっくり話す

② 子どもたちの言葉を引き出す！

こちらが一方向的に話すのではなく、「子どもに話してもらおう」ことを心がけてください。例えば、以下のような質問をして、子どもたちが自立的に学ぶことを促しましょう。

「なぜこの名詞には複数形がないのだと思いますか？」

「この問題ではどんなことを答えるべきだと思いますか？」

③ 子どもたちを褒める！

子どもたちの多くは、慣れない場所での生活でストレスを抱え、自尊心が低い傾向にあります。そんな彼らに自信をもってもらうため、「褒める」ことを意識するのが大事です。

子どもが劣等感を感じていそうな部分を褒めたり、子どもが達成できたことを褒めてあげると効果的です。

「2つの言葉を話せてすごいね！」

「さっき教えたことがしっかり分かっていてえらいね！」



ボランティアの
お力

作成日

2022/06/12

ボランティアの目的

ボランティアの目的

→ 北区の小・中学校に通う「日本語を母語としない子ども」たちのために、「学習支援」と「居場所づくり」を行うこと。

「日本語を母語としない子ども」とは？

→ 母語が日本語以外の言語である子どものことです。
この教室には、中国・フィリピン・バングラデシュ・ミャンマー出身の子どもたちが来ています。

	外国人の人口	全体に対する割合
2000年	10,668人	3%
2005年	13,576人	4%
2010年	16,176人	5%
2015年	16,005人	5%
2020年	22,636人	6%

北区の外国人人口

なぜ「学習支援」が必要なのか？

→ 日本語を母語としない子どもは、日常言語（友だちとのお喋りで使うような言葉）の習得は早いものの、学習言語（学校の授業で使われる言葉）を習得するには時間がかかります。その結果、学校の勉強で苦戦することが多いです。特に大きな壁は、「高校進学」です。子どもたちの中には、高校進学を諦めてしまったり、選択肢がなく夜間の高校に通ったりする生徒もいます。こうした状況を受けて、このボランティアでは子どもたちの学習を支援し、高校進学に向けたサポートをしています。

なぜ「居場所づくり」が必要なのか？

→ 日本語を母語としない子どもは、学校で孤立することが多いです。クラスで友だちができず、学校では一言も話さないという子もいます。名前をからかわれたり、いじめを受ける子もいます。この教室は、そうした子どもにとって居心地のいい場所でありたいと思っています。彼らが自分の「母語」で自由に話すことができ、そして自分と同じ境遇の子どもとつながれるような空間を目指しています。



ボランティアの流れ



オンライン教室 (Zoom)

→ 新型コロナの感染拡大を受けて、2020年から「オンライン教室」を併設しています。「オンラインで学びたい」という子どもを対象に、ビデオ通話アプリ「Zoom」で学習支援を行っています。

